

702 漫録（篠窪貢亮・南洋視察談（承前号完））

〔『法学新報』第32卷5（365）号 大正11年5月4日〕

漫 録

○南洋視察談（承前号完）

文学士 篠窪 貢亮

新嘉坡に居ります日本人はどんな事をして居るかと云ふ事をお話致します

日本人は前に御話したやうに四千人ばかり居りますが、此四千人と云ふのは、三井物産、三菱商社を始めて致しまして、大きい会社が分彼処に支店を出して居ります、それから船会社と致しましては日本郵船と大阪商船の支店が出て居る又銀行としては、台湾銀行、横浜正金銀行、華南銀行の三つあつて、是等の店で働いて居る社員及雇員等が随分居ります、三井の如きは一時は上は支配人から下は臨時の雇入れますと百人以上居りましたやうな訳で会社や銀行に使はれて居る日本人が沢山居

るが、併しそ等は新嘉坡在留の日本人と云ふ資格は余りない、新嘉坡には自分が居らうが居るまいが、そんな事には一向頓着がない会社の命令で新嘉坡に行けと云ふから新嘉坡に来たと云ふだけで、新嘉坡に対して特別に興味を有つ居る人ではない、又興味を持つと言つた所で新嘉坡に行つてから持つた興味で、心の底から新嘉坡の事を考へてどう斯うと云ふ人ではない、であるから新嘉坡在留日本人と云ふ立場から見ると正派ではない、斯う云ふ会社でなく個人の店がある、大阪辺りの商人の出して居る店もありますが、さう云ふ大きなものを除きまして、彼所で自分の資本なり或は人から借りた金なり、先程申しましたチツテーを利用して拵へた資本なりに依つて小さな店を持つて居る日本人がある、小さい所では一人か二人位の店員を置いて居るが少し大きい所では十人位置いて居る、其様な日本の商人は食物の店迄入れましたならば二百軒位はありまじやう、之が動きのない純粹の在留日本人でありまして、之れ等の商人はどんな商売をして居るかと云ふと一番多いのが雑貨店でありまして、雑貨店と申すのは洋品が主ですが、洋品もあれば薬もあり紙もあり其他大抵のものは売つて居る所謂雑貨店で、之れが軒を並べて居る、で日本人の癖として困つた事は、或人が雑貨店なら雑貨店をださうして其店が大分売れて儲があると云ふことを聞きますと、すぐに其真似をする者が出来て来る、雑貨店があれば矢張り其近所へ店を出して同じ品を売る、尤も違つたものを買つた所で売れる筈もないのですが、少しの間に同じ品を売る店が二三軒隣へ出る、是れ亦相當に利益があるとなる

と又後から後からと同じ店が出来て来る段段と殖えて来るから次第に相互の利益が少なくなる、其土地の人間の様子なり性質なり、又は其土地の購買力なりを考へて新機軸を出さうと云ふやうな事を考へる人は少ない、極端な例を挙げますと、一時或日本人が価の安い瓦煎餅を焼いて町を売つて歩いた所が之が非常に當つて能く売れた何故売れるかと云ふと先程御話いたしましたやうに馬來人は一体が食ふことが目的で生きて居るので其外には何も目的がない、偶々自分が一錢でも金の持ち合せがあるとときに其前に煎餅を売る者が通り掛ると、其一錢で煎餅を買つて、すぐに食つて仕舞ふ、之から支那人のオッフイスや何かに出て居る留守宅の女連中及子供が亦買食が非常に好きで一日中何か買つて食つて居る、支那人の町の前には必ず食物屋の店か又は荷物が置いてある、さうすると金のある中は買つて食つて居る、子供も矢張さうで子供が学校へ行く時には必ず親から小使錢を貰つて行く、親は皆小使錢を子供に渡して遣る事になつて居る、ですから寒天を真黒にしたやうな駄菓子や其他色の種類の駄菓子屋が百も二百も一つの学校の運動場に担ぎ込んで待つて居る、さうすると子供は休みの時間に一錢なり二錢なり出して何かしら買つて食べて居る、学校でも亦それを許して居る、ですから日本の小学校もありますが、日本の小学校では実に困て居る、日本人は子供に買食をさせまいと思つても周囲がさう云ふ状態ですから余程骨が折れる、馬來人は勿論支那人から印度人が瓦煎餅を買つて食ふ而かも一錢に三枚位の瓦煎餅ですから甘くも何ともないが、其の煎餅が非常に売れた、随

つて大変に儲けた、尤も煎餅で儲けたのだから大変な事はないが兎に角始めて遣つたものは儲けたのである、所がさあ日本人の煎餅屋が出来る、今日も一人殖えた、今日も殖えたと云ふので忽ちの中に十何人か出来て仕舞つた、又其瓦煎餅が一銭に三枚ですから甘くない上に売人の数が多くなつたので忽ち売れなくなつて皆共倒に倒れて仕舞つた、之が日本人の癖で実に困つたものです、で日本人が新嘉坡へ始めて行つたのは今から二十年前であります、二十年間も日本人が彼所に入込んで一生懸命に奮闘努力して居るに拘はらず、今日尚ほ余り見るべき成績を挙げて居らないのは、詰り其元は共倒れでありまして、共倒れになることを二十年來繰返して居るのであります、今の煎餅屋がさう、饅頭屋がさう、雑貨店(マツ)がさうと云ふ風に同じ事を何遍も繰返して居るからして、此塩梅では二十年経たふが百年経たふが、今日よりもさう變つた発展は見られないだらうと思ふ、同じ事を繰返して居るのだから年数ばかり幾ら経つても役には立たない、之れはどうかと云ふと新嘉坡に行て居る日本人が相当に素養があればこんな事は無いのですが、前に申しました銀行や会社に行つて居るものは相当の教育もあり素養のある人であるけれども、之れ等の人は自分の為に働いて居るのではない、月給を貰つて新嘉坡に居る間は新嘉坡の為に働いて居るのですが、いつ何時何処へ遣られるのか分らない人人であるから、真面目に新嘉坡の為にはどう云ふ風にしなければならぬと云ふ様な事は考へて呉ない、新嘉坡に居付の人人は真面目に斯うしなければならぬ、ああしなければならぬと云ふ事を考へ

る丈の素質がない、之では迎も日本人の新嘉坡に於ける商業上の発展と云ふやうな事は、未だ前途遼遠だらうと思ふ、さうしてさう云ふ点から考へますと新嘉坡と云ふ所は若い人人が行くには非常に有望な所であると、私は断言して宜いと思ひます、併し此所で考へたい事は昔は南洋と云ふ所へ行けば道の上でも山の中でも浜辺でも到る所に儲け事がゴロゴロ転つて居るやうに思ひ、南洋にさへ行けば誰でも金持になれるやうに思つて居つた又さう云ふ風に書いてある本もあります、又實際無一物で随分儲けた人もあるけれども、併しそれは昔の事でありまして、今日では中中そんな訳に行かない、新嘉坡の海岸へ行つて幾ら大きな目を明いて砂の上を捜しても金剛石が落ちて居る訳ではない、迎も昔の人の考へたやうに濡手(ヌ)で栗を掴むやうな事は幾ら南洋だからと言つてもございませぬ、私は新嘉坡だけの話をして居るのだけれども新嘉坡ばかりでなく瓜哇へ行きまして所で又はボルネオへ行きました所で金儲になる事が道側にも落ちて居ると云ふ訳ではない、尤も転つては居るのだけれども之は相当素養のある詰りあなた方のやうな方方が行つて心眼を以て見たならば落ちて居るのが見えるのに違ひないけれども唯だ慾ばつた蛋取眼では分らないボルネオに行けば早い話が河の中にダイヤモンドの出る所がございます、現に鹿兒島県の人でダイヤモンドの河を挟んだ土地を租借しまして護謨の樹を植えて護謨山にして居る人がある、其人に何故あんな不便な所に護謨山を拵へたのか、モット便利な所が幾らでもあるぢやないかと言つて聞いた所が、其人の言ふには、何護謨山は本当の目的

ではない、此護謨山の中を流れて居る小さな河はダイヤモンドの河だから雨が降ると上流の方から水が出て来て泥を流して仕舞ふと、そこで河の底を筑つみた様さまなもので浚はらて見る、さうするとダイヤモンドが幾らでも出て来る其ダイヤモンドを取りたいばかりに借りたのだと言ふた、其位金剛石の出る河は在るのでございます、尤もボルネオの金剛石は余り質は良くない、質が良くないからさう価も高くはない今日では金剛石の値打が少し下つて来て阿弗利加の金剛石でも其他何処の金剛石でも余り高くはない、尤も吾吾には高くはないと云ふものの買ふ事は出来ないが、併し今日ではダイヤモンドを持つて居つても時代後れで、あんな物を持つて居つても仕方がない、殊にボルネオのダイヤモンドは質が良くないのですからボルネオのダイヤモンドなどを目当にして南洋へ行くのは詰らない話である、先づこんな風でありまして相当な人が行いて見たならば金儲の仕事はあるには違ひないが昔の人が夢想したやうに行きさへすれば、直ぐに一攫千金（獲）と云ふやうな事は既に過去の事に属して居りまして、今日ではそんな事を考へて南洋に行かれては困る、併しさうでなくして行くならば南洋はまだ確かに有望な所であると云ふ事は私が断言致します

又現在南洋に居る人人も前途有望な青年に来て貰ひたいと熱望して居る、それと云ふのは今迄行つて居る人は余りに頭が出来て居らないから、先刻申したやうな詰らない競争をして見たり詰らない遣方をして其日其日を送つて居るやうな始末で大した発展もして居ないからであります

話が色々と変な所へ飛んで行つてどう云ふ風に纏めて宜いか分らなくなりましたが、今少し日本人の話を続けて行きます、今日になつて日本人が更に困つて来た事がある、今日新嘉坡に居る日本人は大変萎れて居る、夫故大抵に見切を附けて帰つて来たいと云ふ訳ぢやないが、戦争中は実に日本人の勢ひと云ふものは盛んなものであつた、何故かと云ふのに戦争の為に船腹が非常に少なくなつたので、他所から新嘉坡に船が這入つて出ない、新嘉坡と云ふ所は周囲の者が集つて来て、其集つて来た者が又他所へ行くと云ふ、所謂集散地でありまして、之ぞと云ふ産物はない新嘉坡の島の中で出来る物はパイナプル位なもので、パイナプルの缶詰は日本にも来て居る、其外には大した工場と云ふものもなく、日常の必需品（需）から贅沢品（ぜ）に至る迄皆之を外国に仰いで居つた、英国や亜米利加は勿論安逸の物が盛んに這入つて来て居つた、所が戦争の為に船が段段少なくなつて来ましたから、英本国からのものが来なくなり、流石の亜米利加も彼所迄は出す余裕がなくなつて仕舞つた、安逸の物は敵国だから勿論這入つて来ない、其結果新嘉坡には品物が非常に少なくなつて来た、其所に幸ひな事には日本は新嘉坡から近い所に在る上、戦争の渦の中には余り卷込まれて居らないと云ふので今迄英本国や亜米利加や独逸から這入つて来た所の品物を補ふ為に、どしどし日本の物が這入つて来た、新嘉坡の港は可なり広い港ですが、此港に小さな船は別と致しまして、一千噸以上の汽船と云ふ汽船は殆ど日本の国旗の立つた船より外には見られない位であつた、新嘉坡の波止場に行つて見ると碇を下して

居る船と云ふ船は皆日の丸の旗を立て居る、それから又あの時分日本の艦隊が彼の辺を警備の為に来て居りました、詰り新嘉坡を根拠地としまして瓜哇の方面から印度、波斯、アデンの近所迄日本の軍艦が彼所へ行き此方へ行きして警戒して居つた、時には巡洋艦から水雷、駆逐艦等を加へますと七艘も八艘も十艘も新嘉坡の港に泊つて居た事がある、又商船は十艘でも二十艘でも波止場に着いて居る商船と云ふ商船は皆日本の商船である、丸で日本の港のやうな光景であつたので、私共の所に使つて居つた馬來人の小使が或時何処で聞いて来たか知りませぬけれども、私共を呼掛けて新嘉坡は何時日本のものになるのかと言つて真面目な顔をして聞くので何故そんな事を聞くのかと言ふて聞いて見ました所が、自分の友達に警察に勤めてお巡りさんになつて居る人があるが、其友達が大変心配して居つたと云ふ、そこで何を心配して居るのかと言つて聞いて見た所が、此新嘉坡が日本の物になつて仕舞つたならば俺達は矢張元の通り巡查で使つて呉れるか知らんと言つて心配して居ると云ふ事であつた、實際一寸考へると日本の物になるのぢやないかと思はれる程日本の軍艦や何かが沢山に来て居つたさう云ふ具合でありましたからして自然と日本の商品がどんどん這入つて来て一時は新嘉坡の市場に在る所の品物は悉く日本製であつた、彼所にはジョンリットルと云ふデパートメントストアがありまして、東京の三越よりは小さいが、英国人が遣つて居る、其所の主人は変な癖があつて日本の品物は嫌ひで、戦争があります迄はジョンリットルの店に日本製の品物と言ふものは一つもな

かつた、所が戦争が二年三年と続いて来ますと、流石日本品の嫌ひなジョンリットルの店にも靴や坑具(ツマ)のやうな種類の物は日本製が這入つて来るやうになり、日本製でなければ何とも仕方がない位に迄なりました、日本の商人の勢ひと云ふものは頗る盛んなもので、三井物産の社員などになりますと西洋人達が向ふから敬礼をする位に勢ひが良かった所が、戦争が済んで仕舞ふと、英本国からも亞米利加からも品物がどんどん這入つて来るし、此頃では独逸の品物も這入つて参りました、どうも英国人は変な所がございまして、戦争が済みますと殆んど同時に戦争は済んで敵対行為は終りを告げたけれども、向ふ十年間は独逸人を新嘉坡に上陸させないと云ふ決議を商業會議所で致しまして総督に建白した、総督は真逆之れを取上げはしなかつたけれども、新嘉坡在留の英国人の考と云ふものは其所らに在る、其位までに独逸人に対して敵愾心を持つて居ると言つて宜いか恐怖心を持つて居ると言つて宜いか、兎に角独逸嫌ひの新嘉坡にも近頃は独逸の品物が弗々這入つて来た、幾ら嫌ひでも安い物は買ひたいからどんどん這入つて来る、英本国からは勿論亞米利加からも独逸からも商品が這入つて来ると云ふ事になると、一番馬鹿を見るのは日本の品物です、今迄は鳥無き里の蝙蝠で威張返つて居つたけれども、其反動が来まして、日本の商品が売れなくなつて来ました所へ、近頃では粗製濫造と云ふやうな話も起つて来る、どうも私は商売違ひであるから粗製濫造の話は出来ませぬけれども、私の知つて居る限では、之は日本の商人ばかりを攻める事は出来ないと思ふのです、私は他所

の事情は一向知りませぬけれども、まあ他所の畑の奴が暇に任して考へた事を話すのですから其御積りで聞いて貰はないと困りますが、新嘉坡に来る日本の品物には粗製濫造品が多い、併し之れは拵へる者も悪いのでありませうが、まだ他に悪い処がある、新嘉坡に這入る日本の商品の半分以上は日本人の手を経て居らないで、支那人若くは亞拉比亞人の手を経て這入つて来る、之に就いて随分滑稽な事がある、私が向ふでシングレットの夏シャツ一枚買つて来ましたが、東京へ歸つて来て同じ品を買つて見ると、新嘉坡で買つたよりも高い、尤も之を厳密に言へば同じ品物でないかも知れませぬが、吾吾のやうな素人の目で見て大した違ひのない、其質も大概似寄つて居るやうに吾吾素人の目には見へる品物が新嘉坡で買ふよりは東京で買つた方が高い場合がある、之は何故かと考へて見ると、新嘉坡で売つて居るシャツは日本人の手を経て日本の大阪なり東京なりから這入つて来たのでなくて、支那人や亞拉比亞人が直接に大阪なり神戸なりの商人に、斯う云ふものを此位の値段で拵へて貰ひたいと言つて注文をする、それが又必ず安い、支那人や亞拉比亞人の注文するのはシャツにしる鉛筆にしる必ず安い物を注文する、さうすると一体が手先の器用な日本人の事であるからして、向ふの注文に応じて拵へて送つて寄越す、之が日本人ではそれだけの物が注文出来ないが、支那人や亞拉比亞人ならば出来る、そこで自然に安い粗製濫造品が這入つて来る、其場合の粗製濫造は粗製濫造ではなくて注文をする方にも罪があると思ふ、今日は粗製濫造だの何だのとやかましい問題には這入らず

に置きますが、一例を言へばさう云ふ訳です、兎に角以上申しましたやうな訳で日本の商品が這入る事が出来なくなりました為に、新嘉坡に居る日本の商人が非常に困つて居る、其上に日本の商人を非常に困らせる一つの原因があるのであります、之を話し出すと大分長くなりますから、今日は之れはどう云ふ訳かと云ふ事だけを御話するに止めます、御承知かどうかは知りませぬが新嘉坡には日本の醜業婦が一千人ばかり居つた、それは昔の話ですけれども、私が行きました時分にも新嘉坡の町だけで二百幾人が居り、馬來半島の方に行くときまだ沢山居りました、それを一昨年十二月三十一日限りで廃めさしてさうして日本へ歸した、實際は皆歸りませぬが半分以上は歸つた、所が其廃めさせると云ふ時に既に一の疑問があつた、それは何の疑問かと云ふと日本人で新嘉坡に小さな店を出して居るものや馬來半島で個人で護謨園を遣つて居る者が資金に困ると云ふ事に為つて来たのであります、是等の者は一方では先程御話したチッターの金を借り、一方では月に百円掛とか六十円掛とか云ふ無尽を拵へまして其無尽で融通を附けて居るのであります、小さな雜貨店や何かで月に一口六十円掛なり百円掛なりの無尽に十口も二十口も這入るなどと云ふ事は逆も出来るものではない、吾吾のやうな極く幼稚な算術の智識で考へても逆も出来る訳はない、之れがどんな小さな小さな雜貨店の者でも此無尽に十口や二十口這入つて居らない者はない之れでは其無尽の金は何処から集つて来たのかと云ふと、前に申しました女郎屋の連中からでありまして、女郎屋と云ふのは毎日毎日只で儲かつて而も現

金で這入つて来る商売ですから其金を皆無尽に掛ける、それを商人達は利用して居つたのであります、所が一昨年十二月三十一日限りで女郎屋と云ふものが全廢になつて仕舞つたから、

のも心苦しい次第であるし、又是から先に本当に実の有るお話が沢山あるのですから、私の如き者は此所らで引下るが宜いと思ひますから私は之で失礼致します（拍手）

今迄無尽にどんどん注込んで居つた女郎屋の金と云ふものは這入らなくなつた、それが為に無尽と云ふものが今迄のやうに円満に融通して行く事が出来なくなつた、そこで商人達は今度は金の融通が止つたばかりでなくそれを払はなければならぬと云ふ事になり御得意であつた女郎屋の連中は帰つて仕舞ふ、随つて品物は売れなくなる、無尽には払はなければならぬが其払ふ金はないと云ふので昨年の正月は此無尽の後始末ですつたもんだの騒をして居つた、それから新嘉坡に居られる銀行の支配人とか会社のマネーヂヤとか云ふ偉い方を整理委員に願つたりして無尽の整理をしやうと云ふのだが、幾ら会社のマネーヂヤや銀行の支配人であつても、金を出しさへすればすぐにも整理は出来るが金を出さない以上は中整理は出来ない、何しろ整理委員になつて骨を折つて見たものの現金がないのだから整理は附かない、昨年は一年中掛つても整理が附かない、本年になつても整理は附くまい、それが為に新嘉坡に居る大概の商人は青い顔をして居る、一方では商品が売れないので青い顔をして居る金がないから随つて商品の仕入が出来ないので青い顔をして居る、斯う云ふ始末で昨事が終つて今年になりましたのですが、今年も是からどうなりますか、一寸面白い見物だらうと思ひます、是から磐谷や何かの事を少しお話しやうと思ひましたけれども長くなりまして、詰らない事であなた方のお耳を瀆す